

平成28年度 宇北高等学校評価アンケート結果

1 調査の概要

学校評価の一環として、本校を保護者、生徒、教職員はどうとらえているかを調査した。本年度の重点目標に対する3項目を含め、可能な限り共通の質問を用い、三者の意識の違いを比較した。また昨年との比較も行った。

回答については A:大いにそう思う、B:そう思う、C:あまり思わない、D:全く思わない、の4つの選択肢を用い、保護者対象のものだけ E:わからない、を加えた。

	生徒	保護者	教職員
有効回答数	953	883	67
調査日	2016/11/17	2016/11/17～22	2016/11/28～12/2

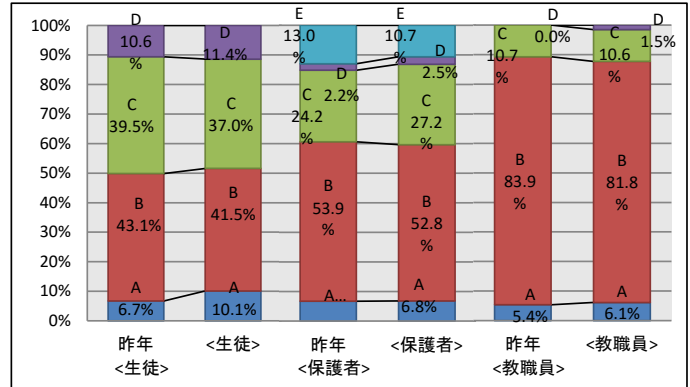
2 質問事項と集計結果

【 A,大いにそう思う B,そう思う C,あまり思わない D,まったく思わない E,わからない 】

【重点目標①】

学力の伸長

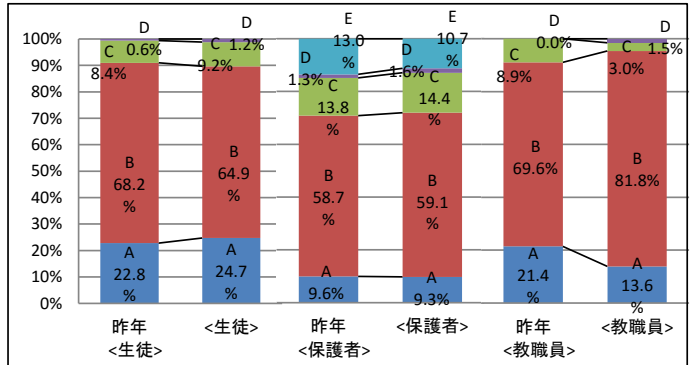
〈生徒〉	私は、宇北高に入学して学力が向上している。
〈保護者〉	宇北高の教育は入学した生徒の学力を伸ばしている。
〈教職員〉	本校の教員は、授業を通して、確実に学力を付けさせている。
◇A「大いにそう思う」とB「そう思う」を合わせた肯定的な評価は、保護者と教職員で微減、生徒は微増である。特に、生徒では「大いにそう思う」が3ポイント強増えている一方で、保護者ではC「あまり思わない」とD「まったく思わない」の合計が3ポイント強増えている。生徒の肯定的な評価が僅かに増えたとはいえ、昨年同様生徒・保護者の評価と教職員側の評価の差が大ききことが課題である。	



【重点目標②】

進路の実現

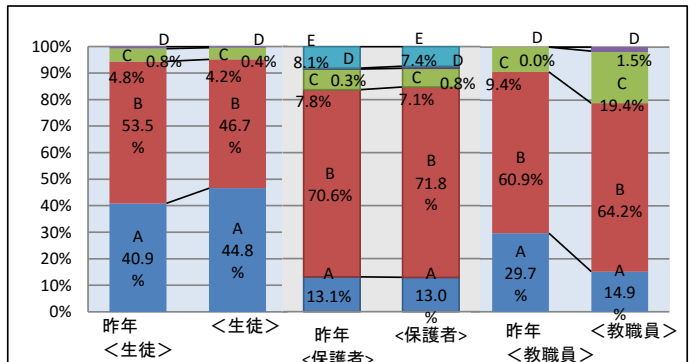
〈生徒〉	宇北高の先生は、生徒の進路について、生徒の適性を生かし、希望の実現につながる進路指導を行っている。
〈保護者〉	宇北高の先生は、生徒の進路について、生徒の適性を生かし、希望の実現につながる進路指導を行っている。
〈教職員〉	本校の教員は、生徒の進路について、生徒の適性を生かし、希望の実現につながる進路指導を行っている。
◇生徒と職員は、A「大いにそう思う」とB「そう思う」を合わせると9割前後となり、高い割合で肯定的に評価しているが、保護者はEの「わからない」を含めると3割弱が肯定的には評価していない。保護者については、Aの「大いにそう思う」の割合が三者の中では最も低くなっているが、AとBを併せた肯定的な評価は僅かに増えている。生徒・職員と保護者の間に認識の差があるが、もっと効果的な進路に係わる情報の公開、伝達を工夫する必要があるのでないかと考えられる。	



【重点目標③】

ルール・マナーの遵守

〈生徒〉	宇北高の先生は、生徒に対してルールやマナー(服装、遅刻、礼儀、交通安全、スマートフォン利用等)を守るよう指導に努めている。
〈保護者〉	宇北高の先生は、生徒に対してルールやマナー(服装、遅刻、礼儀、交通安全、スマートフォン利用等)を守るよう指導に努めている。
〈教職員〉	本校の教員は、生徒に対してルールやマナー(服装、遅刻、礼儀、交通安全、スマートフォン利用等)を守るよう指導に努めている。
◇ルール・マナーの遵守について、学校(職員)側の指導に対する評価である。今年度から「スマートフォンの利用に対する指導」の文言を加えたことに加えて、実際の日常における通学時等でのルール・マナーの遵守状況を見て、職員側の評価として、肯定的な自己評価は大きくポイントを下げていると考えられる。その一方、生徒・保護者側の評価は、むしろ肯定的な評価が増加している。ルール・マナーの遵守に関する本校の指導は、生徒・保護者からは一定の理解を得ていると考えられる。	

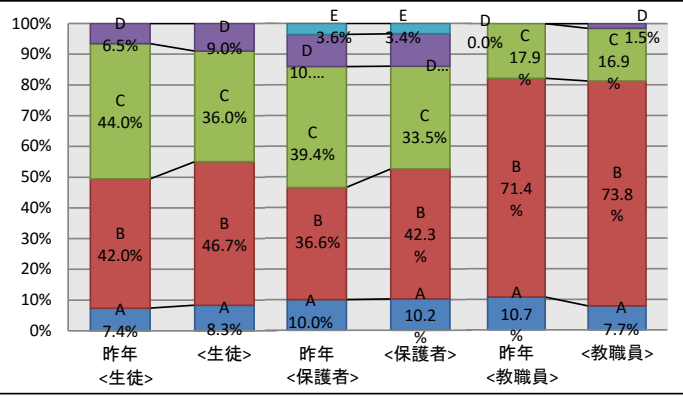


【 A,大いにそう思う B,そう思う C,あまり思わない D,まったく思わない E,わからない 】

【 学習指導 ① 】

予習復習の徹底

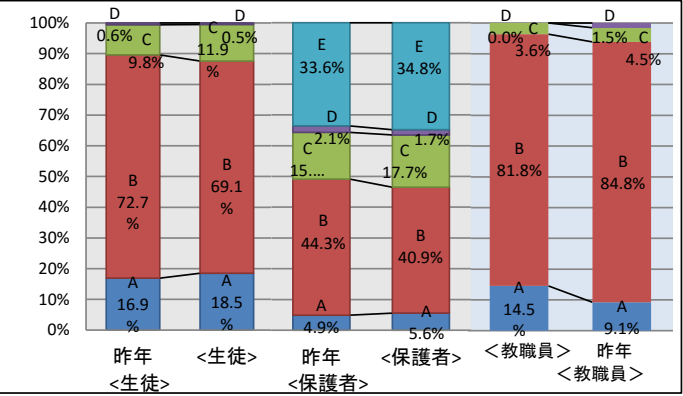
<生徒>	私は、毎日予習・復習をして授業に臨んでいる。
<保護者>	私の子供は、毎日予習・復習をして授業に臨んでいる。
<教職員>	本校の教員は、毎日の予習・復習など家庭学習の習慣を身に付けさせている。
◇教職員はA「大いにそう思う」とB「そう思う」を合わせた肯定的な評価が僅かに減っているが、生徒・保護者では肯定的な評価が5ポイント強増えている。予習・復習をするようになったと評価する生徒・保護者が増えてきており、教職員との差は小さくなってはいるが、それでもまだ教職員と生徒・保護者との認識の差は大きい。	



【 学習指導 ② 】

わかりやすい授業

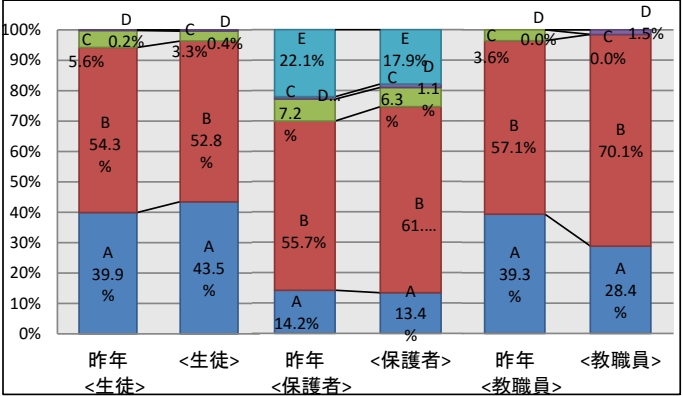
<生徒>	宇北高の先生はわかりやすい授業を行っている。
<保護者>	宇北高の先生はわかりやすい授業を行っている。
<教職員>	本校の教員はわかりやすい授業を行っている。
◇生徒、保護者、職員ともにAとBを併せた肯定的な評価は僅かに減っている。生徒と職員は概ね肯定的に評価しているが、保護者はE「わからない」が多く、C「あまり思わない」・D「まったく思わない」を合わせて考えると、肯定的には評価していない保護者の割合が半分を超えている。学校内での活動に関わる設問であり、保護者にとっては判断しにくい設問であったと考えられるが、この認識の差をどのようにして埋めていくかは課題である。	



【 生活指導 ① 】

生徒からの相談

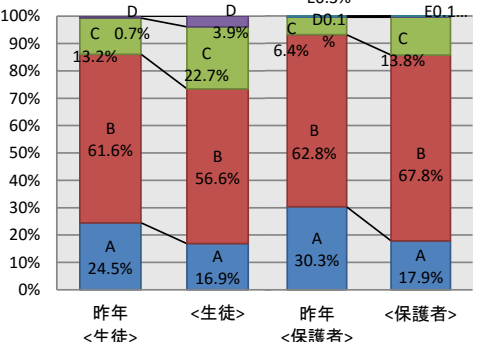
<生徒>	宇北高の先生は生徒からの相談に誠実に対応してくれている。
<保護者>	宇北高の先生は、生徒や保護者からの相談に誠実に対応してくれている。
<教職員>	本校の教員は生徒や保護者からの相談に誠実に対応している。
◇職員の評価ではA「大いにそう思う」が10ポイント弱減っているが、AとBを合わせた肯定的な評価は生徒、保護者、職員ともに増加している。また保護者については、E「わからない」が4ポイントほど減っている。これは、今年度から質問文を「生徒や保護者からの相談」としたことも理由のひとつと考えられる。少し細かく見てみると、例年生徒は学年が上がるほど肯定的な評価が増える傾向にあるが、今年度、3年生ではC・Dの否定的な評価が無く、全てAもしくはBと、肯定的に評価している。この設問については、本校教職員の取り組みが好意的に評価されていると受け止めたい。	



【 生活指導 ② 】

規則の遵守

<生徒>	宇北高生は、服装、頭髪、スマートフォン利用など学校の規則を守っている。
<保護者>	私は、子供の服装、頭髪、交友関係、遅刻やスマートフォン利用等に常に関心を払っている。
◇規則の遵守について、生徒・保護者自身の評価である。今年度から「スマートフォンの利用」について、規則を守っているかどうかの問いを入れたこともあって、生徒、保護者ともに肯定的な評価の割合が大きく下がった。重点目標の②と併せて見てみると興味深く、学校の指導については肯定的に評価しつつ、この質問のように自分自身の評価となると、あまり肯定的には評価できないと考える生徒・保護者の割合が増えるようである。	

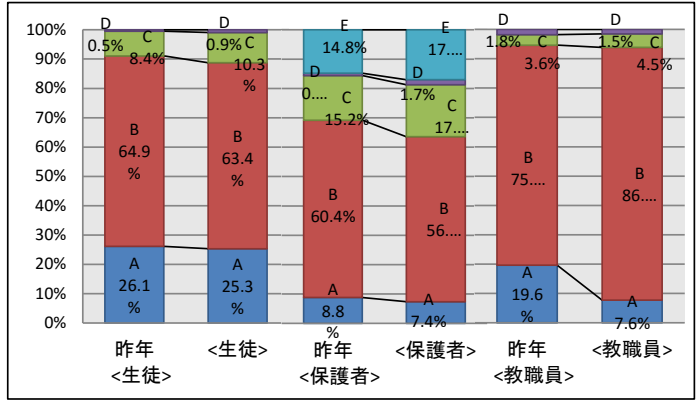


【 A,大いにそう思う B,そう思う C,あまり思わない D,まったく思わない E,わからない 】

【 進路指導 】

進路情報

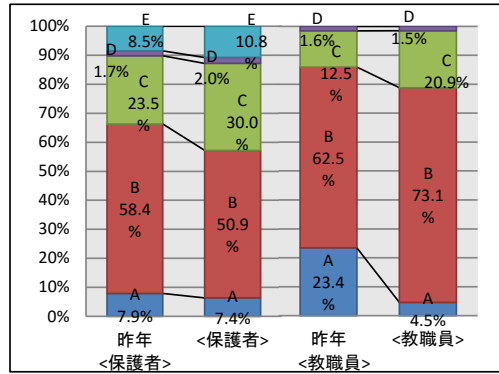
<生徒>	宇北高が提供する進路情報は、役に立っている。
<保護者>	宇北高が提供する進路情報は、役に立っている。
<教職員>	本校が提供する進路情報は、役に立っている。
◇三者ともA「大いにそう思う」とB「そう思う」を合わせた肯定的な評価の割合が減っている。特に保護者は5ポイントの減少となっており、Eの「わからない」と合わせると35%が肯定的には評価をしておらず、職員および生徒とはかなり認識の差が見られる。重点目標の②の質問とも係わるが、保護者がどのような情報を望んでいるのか、また、指導上で必要な情報を、どのタイミングで、どのように提供するか、等の検討が必要である。	



【 情報発信 】

教育方針や情報の伝達

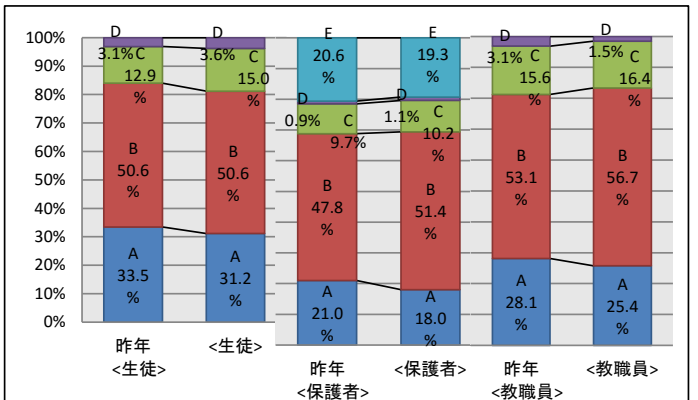
<保護者>	宇北高は、教育方針や学校の情報を保護者に積極的に伝えている。
<教職員>	本校は教育方針や学校の情報を保護者に積極的に伝えている。
◇保護者、教職員ともにA「大いにそう思う」とB「そう思う」を合わせた肯定的な評価が減少している。特に教職員ではAが18.9ポイントの減少である。保護者はどのような情報をほしいと思っているのか、また、学校としてはどのような情報を伝えるべきなのか、更にどのような手段で情報を伝えれば効果的なのか、あらためて検討する必要があると思われる。	



【 国際理解教育 】

内容の充実

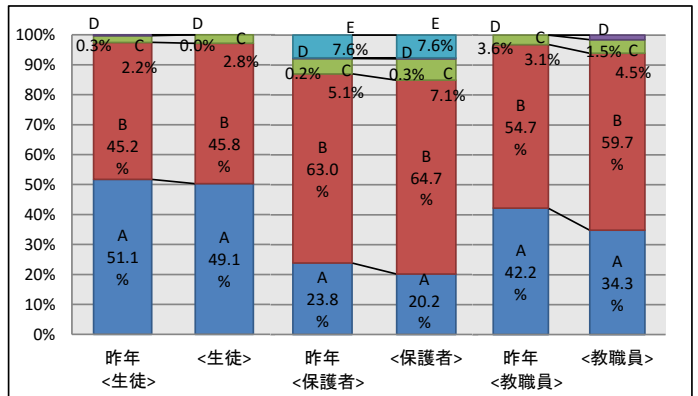
<生徒>	宇北高の国際理解教育は他校に対して誇れる充実した内容である。
<保護者>	宇北高の国際理解教育は他校に対して誇れる充実した内容である。
<教職員>	本校の国際理解教育は他校に対して誇れる充実した内容である。
◇生徒、保護者、教職員ともにA「大いにそう思う」の評価の割合が2～3ポイント落ちていく。生徒、教職員ではAとBを合わせた肯定的な評価は8割前後になるが、保護者では、E「わからない」も含めて肯定的に評価していない保護者の割合がおよそ3割にのぼる。外部への広報のあり方も含めて、国際理解教育の実施については検討が必要であると思われる。	



【 部活動 】

活発さ

<生徒>	宇北高は、部活動・生徒会活動が活発に行われている。
<保護者>	宇北高は、部活動・生徒会活動が活発に行われている。
<教職員>	本校は、部活動・生徒会活動が活発に行われている。
◇生徒、保護者、職員ともにA「大いにそう思う」とB「そう思う」を合わせた肯定的な評価がポイントを落としている。特に教職員では「大いにそう思う」が9ポイントの減少である。評価を下げた背景について検討する必要があると思われる。	

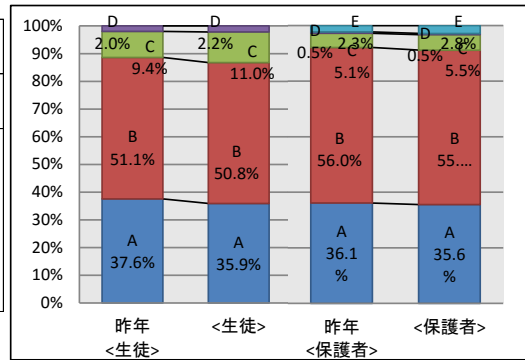


【教育活動全般 ①】

【 A,大いにそう思う B,そう思う C,あまり思わない D,まったく思わない E,わからない 】

宇北高生としての誇り

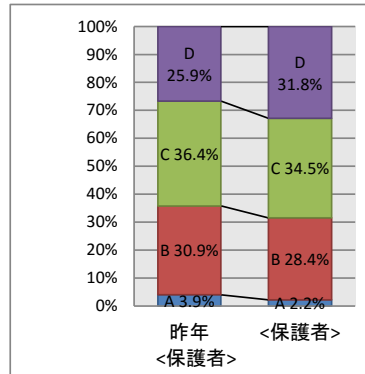
<生徒>	私は、宇北高の生徒であることに誇りをもっている。
<保護者>	私は、子供が宇北高の生徒であることに誇りをもっている。
◇生徒・保護者ともに、A「大いにそう思う」とB「そう思う」を合わせた肯定的な評価が僅かに減少しているが、いずれも肯定的な評価はまだ高い水準である。少し細かく見てみると、保護者では学年間の違いはあまりないが、生徒は3年になるとA「大いにそう思う」が増える傾向にあって、特に今年度は43%に上っている。	



【教育活動全般 ②】

ホームページ

<保護者>	宇北高のホームページを見ている。
◇残念ながらホームページの閲覧については、ある程度継続的に見ている保護者の割合が減ってしまった。トップページの構成を工夫するとともに、早いタイミングで新しい情報のアップと更新を工夫するなど、継続的に「見てみよう」と思わせるようなホームページの工夫は必要であろう。	

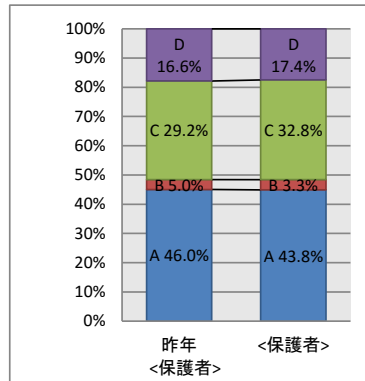


D,見ていない
C,1~2回見たことがある
B,時々見る
A,積極的に見ている

【教育活動全般 ③】

PTA総会・学年保護者会への参加

<保護者>	私はPTA総会や学年保護者会に参加した。(授業参観のみを含む)
◇前年度とほぼ変わらない結果となった。学年別に見てみると、学年が上がるほど「どちらも不参加」の割合が減って「両方参加した」が増える傾向にある。	

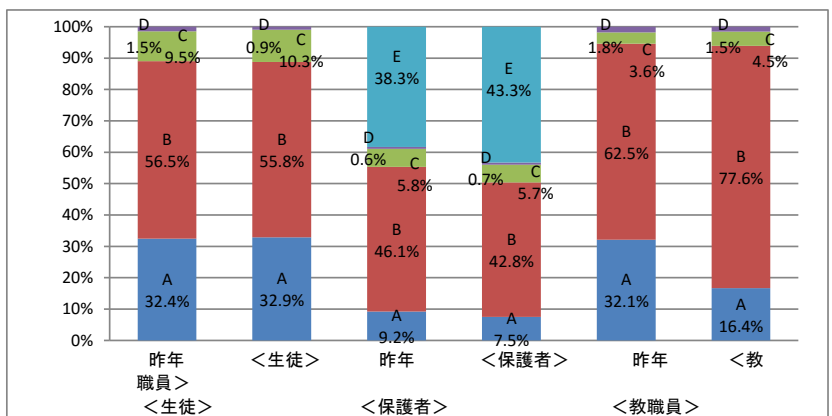


D,どちらも不参加
C,学年保護者会のみ参加した
B,PTA総会のみ参加した
A,両方参加した

【いじめ対応】

【 A,大いにそう思う B,そう思う C,あまり思わない D,まったく思わない E,わからない 】

<生徒>	宇北高は「いじめを許さない学校づくり」に努めている
<保護者>	宇北高は、「いじめ」に対し、「基本方針」に基づいてしっかり対応している
<教職員>	本校は、「いじめ」に対し、「基本方針」に基づいてしっかり対応している
◇前年度に比べ、生徒はほぼ変わらず、職員はA・B合わせた肯定的な評価は変わらないものの、A「大いにそう思う」の割合が、ほぼ半分減っている。保護者はA・B合わせた肯定的な評価が5ポイント減少し、E「わからない」が5ポイント増えた。「基本方針」は年度当初に配付し、併せてホームページ上でも公開しているが、なかなか周知は難しい。	



3 改善に向けた今後の取り組み

◆今年度は前年度比較で、A「大いにそう思う」の積極的評価が減った項目が、生徒、保護者、教職員のいずれも多かった。積極的に評価されない要因は何なのか、次年度の目標設定に向けて各部・学年で分析して改善を図りたい。

◆今後、本アンケートの結果を踏まえて各部各学年での自己評価を行う。次いで学校評議員等の学校関係者のアンケートを踏まえて、今年度の重点目標の達成状況や達成に向けた取り組み状況を把握、整理する。そのうえで次年度に向けての改善方策の検討を行い、来年度の重点目標を決定したい。